

でも癩病にでもなるのではないかと僕は甚く恐れた。

「署長！ 早く俺を法庭へ引き出せ、監獄なれば十年生きられるものを、三年に壽命がちよまる位なものだ。」

此んな生活が人間にしつづけられると思ふか、

俺は今夜首を縊つて死ぬからの」

僕はせつせと繩をなひ初めた。

着物も羽織もポロ／＼に、細長く引き裂いて、二尋三尋もなひ伸ばした。

提灯を付けて、豚のやうに肥えふとつた僕の義母が、小さな握りめし三個と梅干を新聞紙に包んで、穴から放り込んで行く。

アレが僕の弟を殺した幽霊だ。

僕は此の留置場を破壊して、脱走しなければならぬと思つた。

小便是格子の間から垂れ流しても、大便は矢張り板の間の隅にしなければならぬ。

僕は自分の大便と同居して、それを顔へなすくつたり、食べたりする程、まだもうろくしては